

日田市教育委員会アクションプラン

目標及び指標

【目標】

- | | |
|--|--|
| ① 児童・生徒の課題の解決に向けた目標
○ 小学校(算数)の思考力・表現力・判断力の向上
○ 中学校(国語・数学・英語)の基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力の向上
○ 小学校・中学校の学びに向かう力の向上
①教科の勉強が好き②教科の授業が分かる③話し合う活動で考えを深め広げる④わからないことをそのままにしておかない | ② 学校等が抱える組織的・構造的課題に関する目標
○ 学校の組織をはたらかせた全教員・全教科の授業改善に取り組む校内研究体制の確立
○ 学校の組織をはたらかせた短期(年間2～3回)のPDCAサイクルによる検証・改善の確実な実践
○ つけたい力を明確にした「新大分スタンダード」に基づく授業改善の徹底 |
|--|--|

達成指標

取組指標

- | | |
|--|--|
| ○大分県学力定着状況調査、全国学力・学習状況調査の平均正答率(県比・全国比)
小5算103.0
小6国A106.0 小6算A104.0
中3国A102.0 中3数A102.0
中2英語偏差値51.0 | ○「新大分スタンダード」に基づいた授業観察シートを活用し、11月までに2回以上授業を観察する。
【授業観察シートで11月までに2回以上授業を参観した教員の割合 100%】 |
| ○大分県学力定着状況調査、全国学力・学習状況調査の平均正答率(全国比)
小6国B106.0 小6算B103.0
中3国B102.0 中3数B102.0 | ○全国学力・学習状況調査の調査問題(B問題)を解いて、改善策を見出す研修を、全小中学校が10月までに実施する。
【研修実施の学校の割合 100%】 |
| ○全国学力・学習状況調査(質問紙:肯定的回答の割合)
①教科の勉強が好き(国語、算数・数学)
小6国・算 65.0 中3国・数 60.0
②教科の授業が分かる(国語、算数・数学)
小6国・算 83.0 中3国・数 70.0
③話し合う活動で自分の考えを広め深める
小6 70.0 中3 65.0
④授業でわからないことそのままにしておかない
小6 95.0 中3 90.0 | ○学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員の公開授業や学びに向かう学校づくり中核校の公開授業に、小中学校全教員が2月までに1回以上参加する。
【公開授業に1回以上参加した教員の割合 100%】
○「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいた公開授業を、小中学校全教員が11月までに実践する。
【授業を公開した教員の割合 100%】 |

行動計画

- ① 授業改善に関する行動計画
- ア 学校全体で取り組む授業改善に向けて
 (管理職による授業改善の推進は必須、小学校における教科担任制の推進を含む)
 <授業観察>・「新大分スタンダード」に基づく各学校の授業観察シートを活用し、管理職は全教員の授業観察を行い、月1回以上指導・助言を行う。
 ・学期1回以上の互見授業週間を設定し、「新大分スタンダード」に基づく各学校の授業観察シートを活用し、全教員が11月までに2回以上授業を参観する。
 <授業改善>・「新大分スタンダード」に基づき、つけたい力を明確にし、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・表現力・判断力を育成する授業改善を全教員が日常の授業実践で取り組む。
 <校内研究>・【③取組内容】を協議の柱にした校内研究提案授業を行い、事後研究会で成果と課題を協議し、【③取組内容】による授業改善の修正を行う。
 ・市教委は教務主任・研究主任会議や学校訪問で、「授業改善の5点セット」「授業改善計画」を踏まえた校内研究の取組内容と進捗状況について指導・助言を行う。
 <校内研修>・全国学力・学習状況調査のB問題を解いて、自校の結果の課題の分析から改善策を見出す校内研修を10月までに行い、授業改善につなげる。
 <検証・改善>・「授業改善5点セット」と「授業改善計画」を年度当初に作成し、重点目標達成のための【①授業改善テーマ】を設定し、【⑤検証指標】で短期(年間2～3回)の検証・改善を行う。
 <その他>・小学校において、教科専科制や学級担任の相互乗入による専科制等により、教科担任制による授業実践を推進する。
 ・学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員の公開授業を年間3回設定し、市内小中学校の全教員が参観し、自校での授業改善につなげる。
 ・「市内4中学校の学力向上の取組(授業改善・補充学習・家庭学習)」を市内中学校に広げる。
 ・「小学校活用力向上対策推進事業」推進校を指定して、活用力向上の授業改善を実践的に研究し、公開研究発表会を実施して、域内の学校に普及させる。
- イ 習熟の程度に応じた指導の充実に向けて(補充指導の充実を含む)
 ・中学校数学・英語の習熟度別指導推進教員による習熟度別指導の効果的な進め方の工夫・改善を域内の学校に普及する。(推進教員は習熟度別指導を実施学年総時数の40%達成に取り組む)
 ・中学校確認テスト(数学・英語)を実施し、朝学習・清掃後の時間・放課後の時間を活用した補充学習や個別学習の工夫・改善を行う。併せて、「市内4中学校の学力向上の取組」を普及させる。
- ウ 司書教諭等を核とした学校図書館を活用した指導体制の確立に向けて
 ・学校司書と担任(教科担任)が連携し、環境整備と授業改善を計画的に推進する。
 ・「学校図書館を活用した授業実践推進事業」推進校が、学力向上をめざした授業での活用のあり方を公開し、域内の学校に普及させる。
- エ 市町村の教科部会を活用した授業改善に向けて(特に中学校)
 ・市の中学校教科部会(国語・数学・理科・英語)で、大分県学力定着状況調査、全国学力・学習状況調査の結果の課題解決につながる取組を年間4回の教育課程等研究協議会で推進する。
 ・中学校確認テスト(数学・英語)の問題作成を市の教科部会で行い、補充指導を徹底する。
- ② 学びに向かう学校づくりに関する行動計画(幼保小の連携・小中連携を含む)
 ・「学びに向かう学校」づくり中核校が、指導教諭を中心に、組織的な授業改善と特別活動の充実による学びに向かう学習集団作りを推進し、授業を公開して域内の学校に広げる。
 ・教育課程等研究協議会において、小中合同授業研究会を開催し、小中連携の視点での授業改善を推進する。
 ・同一通学区域内の小中学校の組み合わせによる小中交流A・Bを行い、同一集団の力と意欲を高める目的で小中連携の視点で授業改善を推進する。
- ③ 保護者・地域と連携した学力向上の取組に関する行動計画
- ア 放課後や土曜日の教育環境の充実
 ・小学校6校7教室で、公民館活動を中心に年間20日程度、多様な学習や体験活動を行う土曜教室を行う。
 ・小学校6校7教室で、公民館活動や育友会活動、子供会活動を中心に、主に平日に、年間60日程度補充学習等を目的としたチャレンジ教室を行う。
- イ 学校・家庭・地域の「協働」の取組
 ・学校と協働した家庭・地域の「重点的取組」「取組指標」を設定し、協働して実践し、学力向上会議で成果と課題を検証・改善を行う取組を全ての学校で推進する。
 ・コミュニティスクールのモデル校を5校指定し、研究を進めていく中で、学校と家庭・地域との協働を推進する。
- ④ その他
 ・漢字検定(小学校)と英語検定(中学校)を全小中学校で実施し、チャレンジ精神の高揚と学習意欲の向上とともに、基礎学力の定着を図る。

1